

「開拓伝道と祈り」

「彼は、死者を生きし、無いものを有るものとして召される神を信じ、その御前で父となったのです。」
ローマ4:17

クリスチャン生活の始まりは、神様への祈りから始まります。開拓伝道の開始、教会（エクレシア）の始まりも祈りが始まりとなります。祈りからは、その人に志が生まれ、そしてアイデアが生まれてきます。開拓伝道は「無から有」を生む主のなさる働きに、人が用いられる働きと思います。主人は救い主イエス・キリスト様です。開拓伝道を志す人はこのお方の導きを試行錯誤しながら絶えず働くことであると思います。

そのため、献身が求められます。開拓伝道の模範者はパウロです。「彼は、死者を生きし、無いものを有るものとして召される神を信じた。」アブラハムの信仰に学んでいます。パウロの働き方に、開拓伝道の働き方が学べます。それは、祈りと行動です。今週何時間働いたと言って会社でタイムカードを気にする人の働き方ではどうかと思います。まして、現地に行かないで家の中で留まっているだけでは、その使命は果たせません。無から有を生む働きに用いられる人は幸いです。

「～ヨシュアとカレブ～」

伝道が困難な時代、と言われて久しくなりました。MB 教団でも、今までの各伝道所は、既に自立されています。伝道委員会では、新たな開拓伝道所の開設を願って、開拓伝道ニュースによって、これまで牧師先生方に、開拓伝道のビジョンを語っていただきました。2019年末で、18回を数えています。2020年度は、このビジョンから一歩進む形で、経験豊かな先生をお招きし、開拓伝道の為に祈る機会を設けました。約束の地を偵察に行ったヨシュアとカレブの信仰に倣ったネーミングです。どうぞ、お集りくださり、共に語り合い、祈って行きましょう。

【コーヒーブレイク】



2020年度の伝道委員会はヨシュアとカレブの信仰に倣って開拓伝道のための足掛かりと位置づけ祈りの集いを開催いたします。

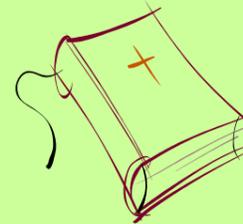
【編集後記】：皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

発行：日本メノナイトブレザレン教団 伝道委員会

〒563-0032 大阪府池田市石橋2丁目17-10-B TEL:072-762-5731

田畑雅紀(伝道委員長) 編集者：板倉由貴夫(広報担当)

MB 伝道ニュース



開拓ビジョンを語る【18】



岩村嘉紀牧師
(大和聖書教会)

「喜びと感動の開拓伝道」

「そして、毎日心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださいました。」使徒の働き 2章 46～47 節

私は以前、東京という日本の都心で開拓伝道の働きに仕えました。4人のメンバーで始めました。サポートがなかったため仕事をして活動費を得ました。当時のスタッフのビジョンはクリスチャンライフスタイルの変革を具体的にコーチングする教会というものでした。それを東京で行うことが御心だと祈りと信仰により受け取り始めました。

まずオフィス街に近いキリスト教書店のビルの一室を時間借りして足掛かりの場としました。宣教の地域を限定せず、そこにいる会社帰りの20-30歳代をターゲットにしたのです。まずは教会を探している人、また潜在的クリスチャンを獲得することも目指しました。4人のネットワークを用いて多教会員をも招待しました。それは移籍ではなくあくまでも開拓サポートの前提です。

キリスト教書店の前に、「Celebration Night」という案内を貼り出し、金曜日午後7時から集会を始めました。メッセージを私たちのビジョンとターゲットピープルに絞ったものとししました。手作りのお菓子を作り暖かいカフェ風にして仕事帰りの人々を迎えました。私たち四人には音楽の賜物がないため、私が学んでいた神学校でギタリストとピアニストを探しました。賛美リーダーが見つからず、しぶしぶ私が担当しましたが、ここだけはとんでもない賜物違いでした・・・。

初日の礼拝は50人近くの方が集まりました。それは数週間後には20人弱の集まりで落ち着きましたが、それは想定していたことです。やがて東京へ移住して来て教会を探していた人や、共に開拓に加わりたいと願う人や、未信者もちらほら巻き込まれてきました。やがて受洗者も与えられるようになりました。

1-2年経過してやがて人が固定化されてきた時点で、集会の場を都心のビルから家の教会へシフトしました。次の目的は宣教、育成、交わりの強化安定を図るためです。メンバーに同世代で共通の課題を持っていて未信者とのネットワークを持っている人がいたため、その地域への移動です。集会は賛美、メッセージを聞いて分かち合いをし、祈り、具体的に指導をしました。その後は食事を共にしました。そこでの賛美はダイナミックさは欠けませんが、「互いに・・・」という教会ならではの交わりの恵みを体験しました。やがて献身者が

数名与えられ、教会は安定していきました。当時の私たちのビジョンではそのような家の教会を数個作ることでした。

私が開拓伝道に携わったわずかな経験から学んだことをお話しますと、開拓伝道はチームが必要であると考えます。一人の開拓者が全ての賜物を持っているわけではないのです。日本の開拓伝道は、一人二人のみで始まり、教会が安定するまでには何十年もかかるというのが実情ではないかと思えます。私たちは成功例を見聞しますが、そこには賜物と使命感と覚悟が必要です。信仰はもちろんですが、実際にはそれ相応の資金と多くの人材とが必要です。ですからスタッフの賜物を最大限に生かして働くチームが必要です。

また教会堂に来てもらうというよりも、ターゲットピープルのいる場所に臨機応変に宣教の場を設けるために教会が出て行くことが必要でしょう。

またターゲットピープルにアクセスする力が必要です。イベントを催しても連れて来なければ無駄に終わります。今日ではSNSを活用することも有効でしょう。

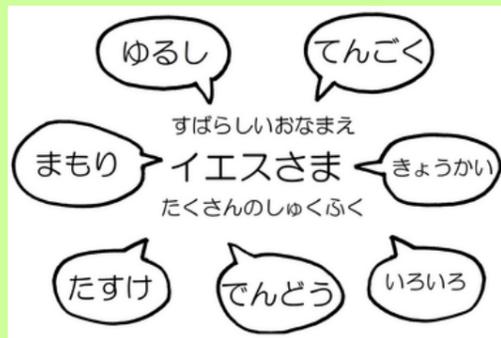
さらにターゲットピープルのニードに応えることです。それは人の自己中心性に合わせるのではなく、真の霊的なニードに応えることです。地域のニードや、あるグループのニードに応えるものかもしれません。いずれにしても福音が適切に伝わり、実を結ぶことが求められます。

最後に祈りは当然のこと、リーダーのビジョンが不可欠です。開拓伝道が難しいと言われる今日、教会間の協力という方法があるかもしれません。地域の連携が出来ればと思います。教団ならば所属教会の枠組みを超えた賜物の生かし合いが出来るとは思いません。いずれにしても開拓伝道の醍醐味は、そこに労苦の実という喜びを共に体験出来ることではないでしょうか。喜びと感動があればこそ、開拓伝道の困難にも立ち向かえるのではないかと思います。

2020年行事紹介 田畑雅紀師 (いずみホープチャペル)

2020年の展望

日本MB教団の現在の教勢は右肩下がり、教団全体として危機感をもった予算面や活動面の対応がなされています。しかし、伝道委員会がかねてから願っていることは、開拓伝道を再開することです。方法は教団主導型、地域教会主導型、まったく新しい形など柔軟に考えていくことができます。3年ほど前から開拓伝道のビジョンを諸先生方から投稿していただき、啓発活動をしてきました。今年度は、開拓伝道祈禱会が新たに始まります。聖霊の導きに委ね、主が新しいことをなさせてくださることを期待しています。みなさんも、主の御業に期待しましょう。



2020年行事紹介 中島若樹師 (能勢川キリスト教会)

1. ソアープログラム

カナダのマニトバ州で毎年、MB教会と他の教会から数百人が集うソアープログラムが行われます。昨年は日本から初めて参加者がありました。参加者はグループごとに市内のクリスチャングループのもとで働きます。ホームレスミニストリー、子ども伝道、先住民教会奉仕、貧困地域にある教会奉仕などが奉仕先です。オリエンテーションで神さまとの関係、チームワークなどについて学んだ後、グループごとに上記のミニストリーに参加します。最後にミニストリーでの経験を振り返り、今後の生活にどう生かすかを学びます。中高生の参加が主ですがどなたでも参加できるプログラムです。今年度はギースプレクト・コーリー宣教師が同行します。日程：2020年3月24日(火)～4月5日(日)、場所：カナダ マニトバ州 ウィニペグ市

2. アクションチーム

今年も伝道委員会が諸教会の伝道活動支援として、北米MBミッションからの夏にアクションチーム(短期宣教チーム)の受け入れ支援を予定しています。来日日程はまだ決まっていないので諸教会への正式な案内は後日となりますが、日本に約1ヶ月間滞在するアクションチームを皆様の教会に派遣することをぜひ検討ください。過去にアクションチームは、子ども伝道、英会話教室支援、被災地支援活動、ホームレスミニストリー、礼拝での証しや賛美などの奉仕をしました。奉仕の依頼をした教会には、次のことをお願いしています。1) 奉仕期間中の滞在費(食費、部屋代)、2) 通いでしたら交通費、3) 奉仕への感謝としての1日/半日観光(状況によります)、4) 次の宿泊/奉仕先までの交通費(新幹線を使うような遠距離でない場合)。経済的に困難な教会の場合は、交通費支援などの補助があります。

開拓伝道祈禱会 藤井 肇師 (国内宣教師)

「開拓伝道とビジョン」

MB伝道委員会祈禱会への招きの言葉
このたび7月29日、25年間の北米宣教の開拓伝道ののちに「ふるさと伝道」に導かれ帰国しました。帰ってきたところで「開拓伝道とビジョン」のテーマで話す機会が与えられ不思議な神様の導きに感謝しています。北米での体験がこのテーマに生かされる用いられることを願って大役を引き受けました。小生は27年前、MB福音聖書神学校の卒業論文は「海外日本人伝道」のテーマでまとめました。最近読み返してみたところ、現在にも用いることができる開拓伝道の原則があることに親しみを覚えました。そこで25年間のカリフォルニアでの邦人開拓伝道の歩みを振り返って、掲げたビジョンがどのように生かされ用いられたか。反省点、改善点を卒業論文と照らし合わせて検証し、私のみならず将来開拓伝道に携わろうとする人たちにとって少しでも役に立つことができたらという願いを込めて話させていただきます。